

福島イノベーション・コースト構想への対応

Contribution to the Fukushima Innovation Coast Framework

The Fukushima Innovation Coast Framework is a national project designed to build a new industrial infrastructure in the coastal region of Fukushima Prefecture in order to recover the industries that were lost due to the earthquake and tsunami on March 11, 2011 and the nuclear disaster.

Within the Framework, projects will be realized in the fields of robotics, energy, decommissioning, agroforestry and fisheries, and efforts are made to form industrial clusters, foster human resources, and to increase the number of visitors.

福島イノベーション・コースト構想は、浜通り地域等における産業の復興のため、この地域での新たな産業の創出を目指す構想です。廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー、農林水産等の分野における産業集積、教育・人材育成、交流人口の拡大等に取り組んでいます。

県内外の大学等が有する本県復興に資する知を集積・活用し、この構想の実現に向けてイノベーションを生み出す高度な人材の長期的な教育・育成の基盤を構築することを目的に、「大学等の復興知を活用した人材育成基盤構築事業」が行われています。本校でもさまざまな機関と協力しながら次の事業に取り組んでいます。

大学等の復興知を活用した人材育成基盤構築事業

事業名：広野町における未利用資源の探索と資源化 みかんプロジェクト

1. 事業のポイント

本事業は、イノベーション・コースト構想の推進などに貢献できる人材の育成を目的にして、広野町と連携し、教育と農業の分野で、福島高専の学生や教職員が活動することで、人材の育成とその環境の醸成に努めている。具体的には、広野町立小学校などで微生物や科学分野の特別授業などを実施し、バナナ栽培に省エネ技術の導入といった農産廃棄物の資源化提案などを行っている。

これらの活動から、広野町内で有用微生物を見出し、その産業利用方法を企業と検討している。また、環境計測や分析技術の導入によって温室内の栽培環境の数値化などを進めている。

2. 人材育成目標

地域の活性化や取り組みを提案できる人、その活動を理解できる人、支援できる人をイノベーション人材と定義し、さまざまな取り組みに参加しやすい環境作り、科学や技術への興味、関心を持てる雰囲気や意識の醸成に取り組む。

3. 2024年度の活動内容

- 有用微生物の探索
- 放課後理科教室
- 施設園芸農業支援



有用微生物の探索活動の様子

事業名：福島復興知学の深化と展開：ミルフィーユ型人材の育成基盤構築

1. 事業のポイント

復興知とイノベーション・コースト構想の推進に必要な多層的な知識・技能を身に付けた人材を「ミルフィーユ型人材」とし、自治体・大学等・企業等と連携してミルフィーユ型人材を育成する。さらに、ミルフィーユ型人材育成を通じて、産業創出や国際的情報発信も行う。

2. 人材育成目標

【地域を担う未来人材の育成基盤構築】

各ライフステージに応じた多層的教育を経て真の復興を担える多様な人材を育成する。

【福島を舞台として、世界的視野で福島の発展を支える人材の育成基盤構築】

浜通りでの「まなび」をもとに学術文化を推進し、世界に情報発信できる人材を育成する。

3. 2024年度の活動内容

【地域の創造的復興を担う人材の育成基盤構築】

- 科学教室、市民講演会、企業向けセミナー、自治体向けに各種セミナー等を実施。

【福島を舞台として、世界的視野で福島の発展を支える人材の育成基盤構築】

- 東京大学、福島高専で復興知教育プログラムを実施。自治体・企業へ放射線教育の提供。



東日本大震災・原子力災害伝承館見学

いわき市連携「未来を支える産業人材育成事業」～浜通りに届ける復興の風プロジェクト～

1. 事業のポイント

いわき市が目指す再生可能エネルギーなどによる新産業創出に向け、東京大学先端科学技術研究センターが培ってきた再生可能エネルギー分野の研究・人材育成ならびに、インクルーシブな社会システムを支える働き方の知見を活用し、被災地域の関係教育機関や企業・団体等と連携し、復興・カーボンニュートラルを地域で支える将来人材を育成する事業である。なお、令和5年度より福島高専が本事業主体(共同申請者)として参画し、地域の中でのカーボンニュートラル・再生可能エネルギー教育を持続的に行うための人材育成・教育のあり方を協議する体制が構築された。現在は研究開発人材の協調への体制・展開も模索している。

2. 人材育成目標

風力発電業界、地域産業を支える将来人材を育成する。2023年度からは、これまでの風力発電に係る教育プログラムをベースとして、カーボンニュートラルを支える人材を持続的に育成できるよう、関係者による検討体制を設置し、産業界とも適宜意見交換しながら、福島高専の教育体系の検討を開始する。併せて、地域の初等教育機

関を対象として再生可能エネルギーやカーボンニュートラルに関連するアウトリーチ教育の強化を図り、地域の将来人材の育成環境の向上を目指す。

3. 2024年度活動内容

- 復興・カーボンニュートラルを支える将来人材育成

- 風力人材育成事業
- 地域の持続的な教育体系の検討
- 地域の将来人材を育成する教育アウトリーチ活動
- 研究交流を通じた人材育成

- 新たな労働環境の形成

- 超短時間雇用の普及促進

- 地域の交流人口の拡大

- 被災地域の関係企業・団体との情報交流



小学生への出前授業